明徳寺報

2023年8月6日
第581号
発　　行
住職　秦　信明
長浜市木之本町黒田

第4回本堂修繕準備委員会報告　委員長　長谷 均

第４回本堂修繕準備委員会報告 ７月２８日（金）午後７時３０分から第４回本堂修繕準備委員会を明徳寺本堂で開催しました。先ず真宗宗歌斉唱に続き、長谷委員長の司会により以下の案件審議しました。委員 11 名が出席でした。

１、見積書の内容確認について　　２、費用捻出方法の検討について　　３、説明会資料について

以上３つの案件を具体的な資料に基づき慎重に審議しました。いろいろな課題や問題点が山積していますが、時期を見て門徒の皆様に説明会を持たせていただきます。

予定している日時は、9 月 24 日（日）午後 7 時 30 分よりです。追って資料などの提示や詳細についてはお知らせいたしますのでご出席くださるようお願い申し上げます。

＊次回第５回準備委員会は、8 月 18 日（金）午後 7 時 30 分から開催します。委員の方はご出席くださるようお願いします。

永代経

先日の月例役員会で秋の永代経について協議をいたしました。総会でご承認いただきました 2023 年度事業計画では、午前 10 時からと午後 1 時からお勤めさせていただき、「御講」も復活させ 3 組の皆さんにお願いをいたしました。しかし、当地においても、昨今のコロナ感染拡大の兆候や熱中症患者の増加などを鑑み、今年もやむをえず午前中のみで勤めさせていただきます。よって「御講」もありません。ご門徒の皆様にはご迷惑をおかけしますがご了承くださるようお願いいたします。3 組の皆さんには、11 月 11 日（土）報恩講の時によろしくお願いいたします。

9月16日（土）午前10時より

法話　徳野明了氏（鳥取県・乗蓮寺住職）

日曜学校「夏のつどい」に 75 人が参加

7 月 30 日（日）１3 時 30 分より明徳寺本堂おいて、第 44 回日曜学校「夏のつどい」を開催しました。好天にも恵まれ、小学校生や子ども園の友だちや親類の子どもら、総勢 75 人（子ども 45 人、大人 30 人）が集まってくれました。

先ず本堂で開会式があり、住職から班別発表（4 班編成）、日程説明などがありました。最初に間違い探しのゲームをしました。宝さがしや、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣りやいろいろなゲームなど、みんなで楽しみました。

夕方になっても気温が上昇し、熱中症など心配していましたが、かき氷、ジュースなども準備し、水分を補給しながら進めました。。低学年の子どもたち中心でしたが、みんなと一緒に楽しく遊び、歓喜の声が本堂に響き渡っていました。

５時半ごろにお夕事のお勤めをしました。子どもたちがお勤めの導師・きん役や「誓のことば」など担当しました。はじめて経験する子どももいましたが、正座して真剣に手を合わせてお勤めしてくれていた姿が印象的でした。とてもうれしく思いました。

午後６時ごろいったん解散としました。自宅で夕食をいただいてもらつて、7 時 30 分に再びお寺へ集合していただき、花火大会をしました。

夜は 25 人ほどの子どもと 15 人の大人の方が参加してくださいました。本堂東側の駐車場で花火をしました。打ち上げ花火もあり、とても楽しい夏のつどいになりました。

コロナ前は宿泊を伴った 1 泊 2 日の集いでしたが、昨年から午後からの半日になりました。熱中症やコロナ感染など不安な状況の中でしたが、たくさんの方にご参加していただき感謝しています。

開催に当たりご協力・ご支援いただいた関係者の方に厚く御礼申し上げます。無事に終えることができ安堵しております。これを機会に毎週の日曜学校にもたくさん参加してくださることを願っています。

当日の写真を掲載いたします。

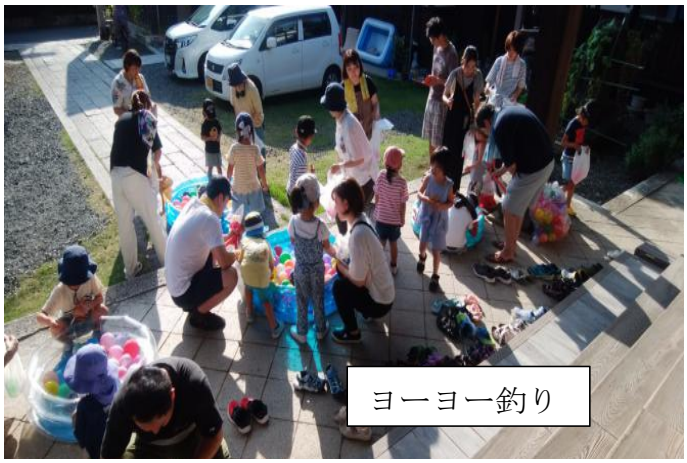
開催も 44 回になりました

間違い探し

開会式・オリエンテーション

かき氷で休憩

宝さがし


ヨーヨー釣り

うちわゲーム

スーパーボールすくい

オセロゲーム

お夕事のお勤め

花火大会

盂蘭盆会　（お盆）

他宗では精霊を迎え、仏壇に蓮の葉を敷き、さまざまな野菜や果物を供える風習がありますが、真宗ではそのようなことをする必要はありません。

お盆は、正式には「盂蘭盆会」といわれ、「仏説盂蘭盆経」に出てくる仏弟子目連尊者の物語に由来するといわれています。

目連が神通力を身につけてのち、これまで仏弟子としての成長を見守ってきた母が亡くなり、その恩に報いるためにその姿をたずねると、我鬼道に堕ちて苦しんでいる母を見ることになります。そこで目連は食物を差し出します。しかし、母が手にすると食物は炎と化し食べることができなかったといわれています。

自分が母のためにささげたものが、炎となってしまうのを前に、神通力を得ながら母一人を救うことができない深い悲しみのなかで、目連は仏陀に教えを請います。すると仏陀は、目連に対して「汝一人のおよぶところにあらず」とさとし、「衆僧供養」をすすめられ、それによって母も救われるということを説かれました。衆僧とは、すべての人びとを等しくいつくしむ、仏陀のこころを生きる人びとです。その人びとを供養することをとおして、私たちが仏陀のこころに生かされていく一人となることです。自分一人の力をたのむならばその願いはまっとうすることはできないということ、そして単に自分の身内である親としてではなく、長いいのちの歴史、深いいのちのつながりをこの私にまで伝えていただいた人びとの恩に報いることを教えられました。そこに「汝一人のおよぶところではない」とさとされる仏陀のきびしい眼があります。共に教えに生きるものとなる時はじめて供養となることを伝えているのです。

ちなみに「盂蘭盆会」というのは古代インドの言葉である「ウランバナ」を漢字にあてたもので、「倒懸」と訳し、逆さに吊るされるような苦しみをあらわしているといわれています。日本では古く「日本書紀」の 657 年の頃に「盂蘭盆会を設けた」と記されています。歴史が古いだけにこれまでいろいろと民間信仰とも結びつき、また地域によってもさまざまな行事が伝えられてきています。

私たちの長い歴史のいとなみのなかで、死は決して単に死んで終わりということではなく、いつも死者として私たち生者と共にあったのではないでしょうか。亡き人を縁としてはじめて知らされる世界があるのです。生老病死が一人の身の上に起こるひとつの出来事のように考えられていますが、そうではなくて人びとの深いいのちのつながりのなかでの出来事であるということ、そのことをあらためて見つめなおし、真宗の教えに遇う法会としてつとめられています。

お盆の記念品について

お盆の記念品について、粗品ですがお受け取りください。お墓にお参りされるときや防災の時にご利用くだされば幸甚です。
いつも皆様には何かとお気遣いを賜りありがとうございます。「お墓まいり」には皆さんお揃いでお参りください。

明徳寺ホームページ　http://myoutokuji.main.jp

木之本老人会日帰り旅行募集中